

戦争史日韓学術会議参加報告（平成 15 年度）

芦 田 茂

平成 15 年度の戦争史日韓学術会議は、平成 16 年 2 月 18 日(水)0930～1700「朝鮮戦争休戦 50 周年を迎えて」を共通のテーマとして、柳澤防衛研究所所長(当時)及び安乗漢大韓民国国防部軍史編纂研究所所長出席のもと、防衛研究所大講堂を会場に開催された。本学術会議においては、3 件の研究発表及びパネル・ディスカッションが行われた。

本学術会議の目的は、共同研究会を開催して共通するテーマを設定して戦争史事例研究により意見交換を図り、平成 15 年度防衛研究所指定研究題目（戦後の諸戦争及び紛争の日本への影響に関する事例研究—朝鮮戦争への日本の関与—）に資するところにある。

学術会議プログラムは下記の通りである。

1 研究発表

議長：戦史部長 林 吉永

0930-1000：挨拶 防衛研究所所長 柳澤 協二(当時)

韓国国防部軍史編纂研究所所長 安 乗漢

1000-1100：「李承晩大統領と韓・米相互防衛条約」

発表：韓国国防部軍史編纂研究所戦争史部部長 金 幸福

コメント：防衛研究所戦史部第 1 戦史研究室長 庄司 潤一郎

1100-1200：「朝鮮戦争勃発前米国の極東軍事戦略における

韓国と日本の戦略的關係」

発表：韓国国防部軍史編纂研究所戦争史部前任研究員 李 鐘判

コメント：防衛研究所戦史部主任研究官 山村 健

1330-1430：「朝鮮戦争と日本—日本の役割と日本への影響—」

発表：防衛研究所戦史部所員 芦田 茂

コメント：韓国国防部軍史編纂研究所戦争史部

前任研究員 李 鐘判

2 パネル・ディスカッション

1445-1700 テーマ：「朝鮮戦争の現代的意義」

議長：防衛研究所戦史部第 1 戦史研究室長 庄司 潤一郎

パネラー：韓国国防部軍史編纂研究所戦争史部長 金 幸福

同 戦史部前任研究員 李 鐘判

防衛研究所戦史部長 林 吉永

同 研究部主任研究官 武貞 秀士(当時)

学術会議の内容の要旨は以下の通りである。まず、研究発表「李承晩大統領と韓・米相互援助条約」(戦争史部部長 金 幸福)において、李承晩大統領の再評価という観点にたち、韓国戦争以前の韓・米軍事同盟関係、韓・米相互防衛条約と軍事同盟体制の形成、韓・米相互防衛条約の意義、韓・米軍事同盟体制の葛藤要因と相互防衛条約改定の必要性などが述べられた。次に研究発表「朝鮮戦争勃発前米国の極東軍事戦略における韓国と日本の戦略関係」(前任研究員 李 鐘判)では、軍事教義的観点における米国の極東防衛線、重層的安保戦略の観点からの教訓などについての研究報告があった。また研究発表「朝鮮戦争と日本—日本の役割と日本への影響—」(戦史部所員 芦田 茂)では、日本における作戦基盤を中心として、調達基盤、朝鮮戦争の日本への影響が報告された。パネルディスカッションでは、朝鮮戦争の今日的な観点から林戦史部長及び武貞主任研究官の発表の後、朝鮮戦争の今日的な教訓を含め韓半島統一問題を中心に、日韓双方の白熱した討議が行われた。

以上、韓国軍史編纂研究所及び防衛研究所、慶応大学、防衛大学校などの研究員等、約 60 名の参集のもと、約 6 時間にわたり研究発表及びパネル・ディスカッションが行われたが、極めて有意義であり、本会議の初期の目的を十分達成したものと考えられる。なお、平成 16 年度の日韓学術会議は、韓国ソウルで行われる予定である。

(防衛研究所戦史部所員)